



事業評価結果(総合評価)

事業採択の前提条件
<input checked="" type="checkbox"/> 便益が費用を上回っている
<input checked="" type="checkbox"/> 事業実施環境が整っている

費用 便益 分析  (参考)	B/C		EIRR	総費用		総便益		感度分析		基準年	
	[4%]	3.9		12.9%	71億円		275億円		交通量変動		B/C=3.5~4.3(変動ケース:±10%)
	[2%]	6.2			事業費: 71億円 維持管理費: 0.1億円	走行時間短縮便益: 246億円 走行経費減少便益: 26億円 交通事故減少便益: 3.3億円	事業費変動	B/C=3.5~4.3(変動ケース:±10%)			
	[1%]	8.1					事業期間変動	B/C=3.6~4.0(変動ケース:±20%)			
令和7年											

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したものである。  
 ※B/Cは対象とした場合の値、( )書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。  
 ※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。( )内は社会的割引率の値

事業の影響	評価項目	評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎
事故対策		◎	鉄道高架化により8箇所の踏切が除却されるため、踏切に起因する交通事故を解消する。 現況:直近10年での踏切事故17件→整備後:0件
歩行空間		○	(主)浜松環状線の整備により必要な道路幅員が確保され、歩行者や自転車にとって安全で安心なネットワークが形成される。
社会全体への影響	住民生活	◎	・高次医療施設への速達性の向上による住民生活環境を改善する。 3次医療施設(聖隷三方原病院・聖隷浜松病院)への救急車の30分到達圏域が拡大し、搬送可能な人口が約2.6万人増加
	地域経済	◎	【浜松ICから企業が集積する都田・三方原地区までの移動時間】 ・踏切除去及び4車線化により交通容量が向上し、交通混雑が緩和されることで、浜松ICから企業が集積する都田・三方原地区への道路ネットワーク機能が向上し、物流の効率化や経済活動の活性化が見込まれる。
	災害	○	浜松環状線は災害時に必要な救助、消防活動および緊急物資を運ぶための緊急輸送道路として指定されており、移動時間の短縮効果により災害時における物資輸送の円滑化にも寄与する。
	環境	—	注目すべき影響はない
	地域社会	○	環状機能の形成により、放射道路の交通量が減少し、放射道路を通る公共交通(バス)の定時性及び利便性が向上する見込みである。

事業実施環境
・昭和42年度都市計画決定(平成22年度変更)
・(主)浜松環状線建設促進期成同盟会などから早期整備の要望を受けている。
・令和6年2月に浜松市と鉄道事業者(遠州鉄道株式会社)間において、積志13号踏切等の鉄道高架化を進めていくことの合意が図られ、事業実施環境が整っている。